様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：１１２０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２７３０６００

研究課題名（和文）　ルソー教育思想の思想史的再検討―「霊操」の視座から―

研究課題名（英文）　Reexamination of Rousseau’s thought on education: from the viewpoint of spiritual exercise

研究代表者
室井　麗子（MUROI REIKO）
岩手大学・教育学部・准教授
研究者番号：４０５５２８５７

研究成果の概要（和文）：
ルソーの教育思想を、「霊操」を分析枠組みとし、ペトラルカの自己形成論を参照枠として、ヒューマニズムの思想史的文脈の中で再読した。その結果、ルソーは「詩人としてのペトラルカ」のみならず、「ヒューマニストとしてのペトラルカ」からも大きな影響を受けていることを明らかにした。特に、両者の思想における呼応関係を、「霊操」の一つである「孤独の実践としての自己形成」という点から解明し、「近代」の教育思想家ルソーにおけるヒューマニズム的側面を明示した。

研究成果の概要（英文）：
I reexamined Rousseau’s thought on education from the viewpoint of spiritual exercise, taking into consideration Petrarch’s influence on Rousseau within the context of humanism. As a result, I found that Rousseau was influenced not only by “Petrarch as a poet”, but also by “Petrarch as a humanist”. Particularly, I brought to light the correspondence between their thoughts in the way they treat one of spiritual exercises, that is, “self-formation as an exercise of solitude”. Thus I could point out a humanistic aspect of Rousseau’s modern thought on education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	600,000	180,000	780,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学
キーワード：教育思想、ルソー、ペトラルカ、霊操

１．研究開始当初の背景

従来、ルソーの教育思想研究においては、「近代教育思想」という枠組みを前提に、この枠内で「人間」と「市民」という対概念から論を展開するという手法が主流を占めてきた。他方で、ルソーの思索そのものが彼の生涯を通じてダイナミックに展開・変化してきたことも、しばしば指摘されてきた。とするならば、「人間」と「市民」とを対概念としてある種の静態的な固定化を行い、これを出発点に「近代教育思想」の中でルソーの位置取りを吟味するという、これまでの研究手法の妥当性そのものを問い直す必要があるといえる。

ルソーの教育思想を動態的に理解するためには、ルソー教育思想の軸となる著作『エミール』を、彼の他のどの著作と突き合わせて読むのか、という点を抜本的に見直す必要がある。従来の研究では、『社会契約論』などのルソーの政治的著作が『エミール』の参照枠とされてきたが、このような組み合わせは、ルソーの教育思想研究の問いを「人間（の教育）」と「市民（の教育）」との関係性に集中させるに至った一因だと考えられる。そこでむしろ、ルソーの他の著作と突き合わせて『エミール』を読み直すことが、ルソーの教育思想を動態的に解釈するために求められるのである。とりわけ、『エミール』の「理論的補強」としてこれらの著作を用いるのではなく、これらの著作からの逆照射によって『エミール』の新たな側面を明らかにすることが重要である。

２．研究の目的

申請者はこれまで、上記のような問題意識のもと、ルソー教育思想の再読を試みてきた。従来は主として文学領域において研究されてきたルソーの著作『新エロイーズ』と、『エミール』の続編とされる『エミールとソフィ』を特に取り上げ、これらの著作を『エミール』から検討するという従来の手法とは逆に、これらの著作で得られた分析視点や枠組みを『エミール』の解釈に持ち込み、そこから『エミール』を逆照射することを試みた。さらに、フランスの思想史研究者 P.アドや M.フーコーによって提唱・展開された「霊操 exercice spirituel」という新たな分析枠組みと、ルソーに大きな影響を与えたとされるストア派の哲学者セネカの思想という新たな参照枠とを用いて、ルソーの教育思想の重層性およびダイナミズムの一端を指摘した。

本研究では、これまでの研究をより発展させ、ルネサンス・ヒューマニズムの祖ペトラルカ（彼もルソーに大きな影響を与えたとされる）の自己形成論という新たな参照枠を加え、「霊操」の分析枠組みを用いてヒューマニズムの流れの中でルソーの教育思想を再読することで、その孕む重層性とダイナミズムをより精緻に解明することを目ざした。

３．研究の方法

以下の３つの方法・作業を中心に本研究を遂行した。

（１）分析枠組みの精緻化―「霊操」に関わる文献の解読・整理・分析―

本研究の分析枠組みである「霊操」に関わる P.アドや M.フーコーらの文献の解読・整理を進め、分析枠組みの精緻化を行う。

（２）ルソーとペトラルカの影響関係に関わる研究文献の解読・整理・分析

この課題は、本研究の主たる先行研究の解読・整理・分析を行い、本研究の方向性をよ

り明確にすることである。

（3）ペトラルカ『ラテン語著作集』の解読・分析

本研究の主たる一次文献の一つであり、ルソーの教育思想再読のための参照枠である、ペトラルカの『ラテン語著作集』、とりわけ『孤独生活論』の解読・分析を行う。

（4）ルソーの教育思想の再解釈

上記（1）～（3）で得られた成果をもとに、ルソーの教育思想の再解釈を行う。

４．研究成果

本研究において得られた成果は下記の３点である。

（1）「霊操」を分析枠組みとし、ストア派の思想を参照枠としてルソーの教育思想を再読するという、本研究に至るまでの研究をさらに発展させた。ルソーが自らの教育思想を論じた著作『エミール』に挿入されている「サヴォワ助任司祭の信仰告白」（以下「信仰告白」と略記）というテキストに注目し、従来ルソーの認識論として読まれてきたこのテキストを、「霊操」という自己実践の書として再読した。とりわけ、「霊操」の要の一つである「パレーシア（本当のことを語ること）」の書として「信仰告白」を読み直し、先行研究の重要な論点である『エミール』における「信仰告白」の位置づけの問題を再検証した。その結果、「信仰告白」は『エミール』の言説の真理性を担保するために挿入されたテキストであることを明らかにし、教育学領域における先行研究が『エミール』におけるその位置づけの問題を不問にしたまま「信仰告白」を『エミール』の教育論・教育方法論の単なる一つの展開として解釈してきたことの問題性を浮き彫りにすることができた。

（2）ルソーの教育思想を、「霊操」を分析枠組みとし、ペトラルカの自己実践・自己形成論を参照枠として、ヒューマニズムの思想史的文脈の中で再検討するという課題を本格的に進めた。まず、ペトラルカに関わる研究文献と、ルソーにおけるペトラルカの影響に関わる研究文献を解読し、特に 18 世紀フランスにおけるペトラルカの受容状況を明らかにした。具体的には、①14 世紀以降『カンツォニエーレ』の作者として称賛を謳歌していた詩人ペトラルカは、17 世紀後半のフランスにおいてはイタリアの凋落と共に嘲笑の的になったこと、②その後 18 世紀に入るとヴォルテールの批判的受容を経て、ルソーが詩人ペトラルカ復活に大いに寄与したこと、などが明らかになった。同時に、③上記の先行研究においては「ヒューマニストとしてのペトラルカ」のルソーへの影響については俎上に載せられてこなかったことがわかった。

そこで次に、ヒューマニズムの文脈にルソーを位置づけるべく、「ヒューマニストとしてのペトラルカ」のルソーへの影響について検討を試みた。具体的には、「霊操」の自己実践の枠組みのもと、ペトラルカの『孤独生活論』というテキストを参照枠として、ルソーの教育論を再読した。その結果、④「自己へ深まるとともに世界へと深まり、世界における自己の位置取りを分析した上で世界における自己のあるべき生き方を自覚する」という、自己と世界との関係性の図式が両者において共有されていることが判明した。

（3）近代教育におけるルネサンス・ヒューマニズムの受容に関する先行研究を整理・分析した。そしてペトラルカのヒューマニズム思想・哲学を、先行研究を手がかりにしなが

ら「霊操」という観点から検討し、さらにこれらの作業を通して得られた成果をもとにルソーの教育思想を再読した。具体的には、①ペトラルカの『孤独生活論』と、ルソーの『告白』『孤独な散歩者の夢想』および『エミールとソフィ』とを対置させ、その結果①「孤独の自己実践としての自己形成論」という両者の呼応関係を浮き彫りにした。さらにこれらの作業を通して、②ルソーの「近代」教育思想におけるヒューマニズム的側面を明らかにし、③近代教育において、ヒューマニズムは、従来解釈されてきたような「形式主義」にのみ回収されるものではなく、「霊操」という生の実践としても継承されていることを指摘した。加えて、④現代の教育的課題と関連づけながら、「孤独」の教育的意義も明示した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）
①室井麗子、ルソー教育思想の再検討―「ペトラルカの受容者ルソー」という観点から―、フィロソフィア・イワテ、査読無、第 43 号、2011、1－11
②室井麗子、霊操（exercices spirituels）の書としてのルソー「サヴォワ助任司祭の信仰告白」―パレーシア（本当のことを語ること）の視座から―、近代教育フォーラム、査読有、第 20 号、2011、53－67
③室井麗子、近代教育におけるホリスティック教育の位置づけ―Ch.テイラー『世俗の時代』を手がかりに―、教育哲学研究、査読有、第 103 号、2011、31－37
④室井麗子、「スピリチュアリティと教育」再考―Ch.テイラー『世俗の時代』(2007) を手がかりに―、近代教育フォーラム、査読無、第 19 号、2010、147－151

〔学会発表〕（計６件）
① Reiko Muroi, Crossing philosophical boundaries, The 42nd Annual Conference of the Philosophy of Education Society of Australasia, 2012.12.7-12.10, National Chiayi University (Taiwan)
② Reiko Muroi, Humanistic Tradition in the Modern Thought of Education: Reconsideration from Rousseau's Reception of Petrarch, The 13th International Conference on Education Research, 2012.10.17-10.19, Seoul National University (Korea)
③室井麗子、ルソー教育思想の再検討―「ペトラルカの受容者ルソー」という観点から―、岩手哲学会、2011．9．3、岩手大学（岩手県）
④室井麗子、近代教育におけるホリスティック教育の位置づけ―Ch.テイラー『世俗の時代』を手がかりに―、教育哲学会、2010．10．17、中央大学（東京都）
⑤室井麗子、霊操（exercices spirituels）の書としてのルソー「サヴォワ助任司祭の信仰告白」―パレーシア（本当のことを語ること）の視座から―、教育思想史学会、2010．9．20、日本大学（東京都）

〔図書〕（計１件）
①室井麗子、他（編集・監修：田中智志・橋本美保）、新・教職課程シリーズ第 2 巻教育の理念・歴史（執筆担当箇所：第 5 章西洋の教育思想と学校の歴史①―前近代の状況）、一藝社、2013.8 刊行予定

６．研究組織
(1)研究代表者
室井　麗子（MUROI REIKO）
岩手大学・教育学部・准教授
研究者番号：４０５５２８５７